



現在提案されている「2017年度システムチェンジ・コストダウン計画」

新潟支社一地本間 提案

びゅうプラザ長岡駅をVTSへ移管
△18 【2018年4月1日】

びゅうプラザ鶴岡駅と柏崎駅 - 廃止
△6 【2018年4月1日】

新潟駅検査の廃止
△3 【2018年4月15日】

新潟駅作業体制の見直し
・新潟駅
+12 【2018年4月15日】

駅業務委託のさらなる推進
・新潟駅 (一部委託)
△21 【2018年6月1日】
・豊栄駅 (全て委託)
△6 【2018年7月1日】

びゅうプラザは全社的に「(株)びゅうトラベルサービス」(VTS)へ移管していく。今回は長岡がVTSへ丸ごと移管。今後、VTSから受け入れを拒否されたびゅうプラザは廃止へ。今回は、鶴岡と柏崎。

定例作業がないから、新潟駅高架化に便乗して廃止へ。不測の事態に対応するための検修社員を支社内最重要駅からなくすということ。

ホームドア扱いなど、高架第一期開業に伴う初めての作業があるための要員配置。最初はJR本体社員で対応するため。

エルダー社員の雇用の場の確保のため。新潟駅西口コーナー、ホームドア担当などをGWの多客期以降、JNBへ委託。豊栄駅はJNBへ丸ごと委託。

本社一本部間 提案

「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化について」
【2018年7月1日】

モニタリング装置の活用などにより検査周期を4年に。閑散線区のメンテナンスや災害巡視の外注化など。保線職場の大効率化施策。

あなたの組合は現場組合員の声を吸い上げてくれていますか。一度効率化されてしまうと問題を是正させることが大変になります。外注化に至っては「他会社のことなので」とJR東日本は親会社であるにも関わらず、問題の把握も是正も積極的には行いません。よって、施策実施前に労働組合がしっかり議論すること、そして実施後もチェックすることが大事なのです。

知っていましたか？3年前に外注化された車両製作所は、現在、無謀な工程計画と要員不足等により連日深夜帯までの超勤や休日勤務が発生したり、要員に穴が開いた作業に下請け会社等を入れ、ブラジル人や中国人も一緒に電車を作っています。直江津地区丸ごと移管された「トキてつ」では、女性宿泊設備をトキてつだけで使用するとし、ダイ改後に女性乗務員が宿泊できなくなります。5年契約のはずのエルダー契約も途中で破棄されています。外注化による問題は枚挙に暇がありません。

「あの時、一緒にたたかっていたらと後悔しても遅いのです。」企業にとって、健全な労働組合は必要です。東日本ユニオンで共に取り組み、より良い施策・会社へとしていきましょう。